

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 豊橋市立栄小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒 一
愛知県豊橋市北山町字東浦 46 番地の 4

E-mail sakae-e@toyohashi.ed.jp

Website www.sakae-e.toyohashi.ed.jp/

児童生徒数 男子 427 名 女子 381 名 合計 808 名 (2 月 1 日現在)
児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校では、ESDの目的を「友達との学校生活、地域の人々の生活や行事・文化などに触れる体験を通して、友達や地域の人々とかかわりながら自らを高め、生涯にわたり持続可能な社会づくりに寄与できる資質や能力の基礎を育てること」ととらえている。

他とかかわり合うためには、コミュニケーション能力・表現力が必要である。本校では、「お話タイム」において、友達の話をしっかり聞く態度、自分の考えをわかりやすく伝える能力の育成に努めている。また、各教科の授業では、話し合い活動を組み込み、子どもたちが自分の考えをしっかりともって課題解決のために議論できる力を培っている。そして、児童会活動や学校行事、生活科や総合的な学習の時間での体験活動を通して、授業で培われた能力を確かなものにすることを目指している。とりわけ、生活科や総合的な学習の時間では、地域を学びの場として積極的に活用している。あわせて、子どもたちに、地域の行事への参加を呼びかけている。これらの学習や活動を通して、子どもたちは友達や地域の人々と深い絆を築き、社会の一員として地域社会に貢献できる人材としての資質を培っていく。

そのために、以下の活動を設定し、本年度実践した。

(ア) 国際理解学習での学び

国際理解につながる学習を計画し、個々の人格の発達や人間性を育んだ

・朝の活動の時間を活用した「お話タイム」の実践（全学年）

教師や児童の提案する話題について、各学級で自由に話し合いを行った。話し合いの基礎となる話形の習得や自分の思いをわかりやすく伝える力、友達の話真剣に聞く態度を養った。

・話し合い活動を重視し、共に学び合い自らを高め合うことのできる授業の実践

各教科・領域において、話し合いによる課題解決の場を設定し、自分の考えをもって、思いを伝えたり友達の考えを聞いたりしながら、自分の考えをより確かなものにしたり、高めたりするよう努めた。

・「英会話」活動の充実、発展（3年生～6年生）

本校では、ALTやスクールアシスタント、英語ボランティアの協力を得て、「英会話」活動にも力を入れている。日常生活の具体的な場面を想定して、子どもたちは身近なことや自分のことを相手と伝え合い、英語でのコミュニケーションを楽しんでいる。発展学習として、5年生では、セントポールズ校の学生と交流した。6年生では、奈良・京都への修学旅行で外国人観光客に英語でインタビューすることで、多くの国の人々と交流を図った。将来、子どもたちが国際社会で活躍できる素地が養われることを期待している。



お話タイム（6年生）



セントポールズの学生と交流

(イ) 福祉体験学習での学び

校区にある福祉施設（王寿園）への訪問や障害のある方の講話、図書館ボランティアの方の話を聞くなど、身近にできる体験を通し、共生の意識や自分たちにできることを考え実践する姿勢を育てた。

・総合学習「福祉について考えよう」・「共に生き



王寿園のお年寄りとの交流

る」の実践（5年生）

福祉について学習した後、校区にある養護老人ホーム（王寿園）を尋ね、お年寄りと交流する。お年寄りに喜んでもらえる歌やゲームを班ごとに考え、実際にふれあう中で、高齢者に対する思いやりの心を育んだ。また、障害のある方を招き、話を聞くことで、障害のある方たちも地域社会で自分の役割を果たしながら共に生きていることを確認し、協力して住みよい社会を作ることの大切さに気づくことができた。

・総合学習「心のバリアフリーを感じよう」の実践（5年生）

車いすの乗り方や押し方を体験する「車いす体験」では、校内や校区を車いすに乗って動かすことを経験した。体験を通して、日常気にとめないことに不便を感じるものがたくさんあることに気づいた。少しの段差が車いすにとっては大きな障害となることがわかり、誰でも過ごしやすい環境作りを考えることができた。

(ウ) 環境教育・食育での学び

地域の環境に目をむけ、生き物や食べ物の大切さに気づけるような実践を行った。

・総合学習「水無川クリーン大作戦」（4年生）

校区内にある水無川の様子を調べ、水無川の清掃を行った結果、ゴミが多いことや生き物が少ないことに気づいた。川に生息するザリガニの気持ちになり、学習発表会では学んだことを発表した。生き物の命の大切さから、自分たちの命について学習を発展させることができた。



学習発表会で水無川について発表する児童

・生活単元学習「苦手克服大作戦」（特別支援学級）

児童の嫌いな野菜を食べられるようにすることの大切さを、様々な実践を通して学んだ。嫌いな野菜を自分で購入・栽培・手入れ・収穫する体験から、嫌いな野菜に愛着をも



野菜に触れ、調べる

つようになった。この体験により食べ物を大切にすることを育んだ。また、家族にインタビューしたり、絵本を使って調べたりし、調理方法を工夫することで嫌いな野菜でも食べられることに気づいた。調べたことを発表し、他の児童に伝え、調理した野菜を食べることができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）